

# 大手道の調査佳境に

主郭地区の調査に先立ち、7月初旬より開始した小牧山城大手道の調査が佳境に入っています。この調査は、旧本庁舎の跡地を往時の姿に復元整備する際の基礎資料を得るために行っているものです。旧本庁舎の西側から直線的に延びる大手道の左右、各1箇所調査を行い、大手道の両側に沿って築かれた土塁や大手道の本来の道幅、大手道を挟んで展開する曲輪の構造などを確認することができました。

調査で確認した土塁



人工的に積み上げられた土の痕跡



発掘調査は、人力により土砂を取り除いた後、確認した城郭の構造などを図面に記録します。同時に写真、ビデオ映像でも記録を作成します。また、レーザーによる測量を行い、正確な地形データを採取します。9月13日現在、この大手道部分での調査はレーザー測量が終了

し、最終面（完掘状況といえます）の映像記録の撮影を控えている状況です。主郭（本丸）地区の発掘調査も、同様の手順で実施する予定です。

## 発掘ひとくちメモ

### ～「何がでてくるの？」～

「小判が出ないなら何が出る（出土する）のか？」これもよくいただく質問です。発掘調査で出土するモノのことを『遺物』といいます。実は小牧山城の調査で出土する遺物の量はそれほど多くありません。多くはお城があった当時、またはそれ以前の土器・陶器がほとんどです。出土した遺物は洗浄・接合・保存あるいは復元等の処理を行い、必要な調査を行ったのち、一部は小牧市歴史館などで展示されます。